

平成27年度第3回長崎県観光審議会 会議結果

1. 日 時 平成27年10月30日(金) 13:30 から 16:30 まで
2. 場 所 長崎県農協会館7階 701会議室
3. 出席者 安徳会長、深田副会長、河野委員、高田委員、納富委員、丸山委員、横山委員、桑原委員、徳島委員、中坂委員、中山委員
4. 議 事
 - (1) 長崎県観光振興基本計画の実施状況について(報告事項)
 - (2) 次期長崎県観光振興基本計画(素案)について(審議事項)
5. 主な意見

議事(1)については、特に意見等なし。

議事(2)については、別添のとおり。

平成27年度第3回長崎県観光審議会(主な意見)

意 見	
○次期長崎県観光振興基本計画の策定(素案)について	
	<p>○第1章 4. 数値目標</p> <p>・「延べ宿泊者数」は外国人も含めての数値で、「外国人延べ宿泊者数」はその内のりであり、対して、「再来訪意欲度」については国内の方のことだと思われるので、このあたりの区別がきちんとできるような表記になっていると、経緯を知らない他所の方が見た時にわかりやすいのではないか。</p>
	<p>○第1章 4. 数値目標</p> <p>・”どれだけの数のお客様を呼び込むか””何日間・何泊してもらうか”という視点で、平均滞在日数という項目をベンチマークとして入れてはどうか。</p>
	<p>○第1章 4. 数値目標</p> <p>・数値目標が5項目でなければいけないという制約がないのであれば、①平均滞在日数、②新規の観光客がどれだけ来てくれたか、③観光に対する住民の意識の変化、高まりがわかるような項目の3点ぐらいが加わると、質と10年後、20年後を見据えた将来性網羅できるような目標になるのではないか。</p>
	<p>○第1章 4. 数値目標</p> <p>・統計は市町から上がってくる数値を採用するので、市町統一の統計フォーマットを作って、周知したらいいのではないか。</p>
	<p>○第1章 5. 推進体制</p> <p>・市町の役割が薄い。市町の役割についても、県の役割と同様に、観光関係事業者や観光振興団体が連携して取組を進められるよう総合調整や支援を行う総合調整や支援を行うといった内容の文言を記載すべきではないか。</p>
	<p>○第3章 1. 長崎県観光の将来像</p> <p>・「世界に通用する新・観光立県長崎」というメインタイトルはいいかと思う。しかし、サブタイトルの「～量から質への転換～」は一見非常に短くて簡潔でいいような気がするが、一方で、数値目標等を掲げながらやっているのに、テーマに記載するというのは好ましくない。</p>
	<p>○第3章 1. 長崎県観光の将来像</p> <p>・(3)の「世界が認める観光地ながさき～長崎観光の魅力・満足・価値の向上～」がよい。 <理由></p> <p>・(1)の「世界に通用する新・観光立県長崎～量から質への転換～」は、“質”というものが人によって解釈がかなりばらばらになりやすく、「通用する」という言葉遣いに自虐感があるので、(3)のほうがポジティブな印象を受ける。</p> <p>・“質”が“満足”という言葉に代わっていて、(1)は言葉の主語が長崎県の事情という意味合いが強いが、(3)だと主語が長崎に来られる方というほうに目線が変わっているので、誰の目線でこの計画があるのかということ意識づけるという意味では(1)より(3)のほうがいい。</p>

平成27年度第3回長崎県観光審議会(主な意見)

意 見	
	<p>○第3章 長崎県観光の将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(3)の「世界が認める観光地ながさき～長崎観光の魅力・満足・価値の向上～」がよい。 <p><理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎はすでに世界に通用しているので、(1)で今さら「通用する」という言葉遣いはしなくていい。 ・(2)「ワンランク上の観光振興を目指して～国際観光県ながさきの実現～」の、「国際観光県」という表現は古い。
	<p>○第3章 長崎県観光の将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つともよくわかりやすい表現でいいと思うが、長崎のオリジナリティ、長崎のよさというのが伝わってこない <p>ので、平和的な思いであったり、深い歴史であったり、海外との交流であったりといった部分をもう少し考慮していただきたい。</p>
	<p>○第3章 長崎県観光の将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(3)が一番いいと思うが、「満足」のところを「満足感」とするほうがよい
	<p>○第3章 長崎県観光の将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(3)が一番いいと思うが、「ながさき」の表記を「NAGASAKI」にすると異国情緒のでののではないか。
	<p>○第4章 全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組例があるところとないところがあるのが、アンバランスに感じる。
	<p>○第4章 全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもてなしに関する記述が非常に多く出てきており、極めて重要な施策のひとつだとわかる一方で、その記述が分散しており、観光事業者、宿泊施設等が読んだときに、自分たちがどういうことに関わるのかが読みにくい。今から章や項を動かすことが難しいのであれば、ある程度重要なことについてまとめておくことも必要ではないか。
	<p>○第4章 1-(1)-②「観光協会等の組織強化」(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DMOは、既存の観光協会のようなところに新たにDMO的(プラットフォーム的)な役割を上乗せして加えていくパターンと、キーマンを集めて一からつくって組織として育てていくパターンの2パターンがあるが、案の記載を見ると前者だけの気もするので、後者の新しく組織作りをすることの支援も入れば、組織体の柔軟性が広がるのではないか。
	<p>○第4章 1-(1)-②「観光協会等の組織強化」(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DMOについて、第4章 2-(1)-②「ビジョンの実現に向けた体制づくり」がまさにDMOのことだと思うので、取組例の記載については13ページとの記載場所の調整、どの項目でDMOを立てていくのかの調整は必要。

平成27年度第3回長崎県観光審議会(主な意見)

意 見	
	<p>○第4章 1-(1)-④「宿泊施設等のサービス水準の向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存施設のハード整備の視点が抜けているので、観光部局だけで支援できるものではないが、その視点での配慮があったほうが、観光事業者にとっては読みやすく、頑張りやすい文言になるのではないかと。
	<p>○第4章 1-(3)-①「ビッグデータ等を活用した観光マーケティングの強化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・”調査した情報をできるだけ関係する市町などにも反映する””今の課題を吸収して、ビッグデータの調査などに活かす”などの部分の記述も盛り込んでいただきたい。
	<p>○第4章 1-(3)-①「ビッグデータ等を活用した観光マーケティングの強化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータよりもむしろ早急に必要なのは観光事業者や市町などが共通で使えて、それを以って戦略を練れるオープンデータだと思うので、どのように県としてオープンデータ化を推進するかということのほうが意義は非常に高いと思う。
	<p>○第4章 1-(3)-②「ICTを活用した観光マーケティングの強化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この項目における「マーケティング」がどういうことを意図しているのかが非常にわかりにくく、漠然としているように感じるので、何を意味しているのかについて、文章の中に明記されたほうがよい。
	<p>○第4章 2-(1)-③「各地域の観光まちづくりの支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組例に記載されているWi-Fiについては実感するところもあるが、加えて東京都がやっている太陽光を活用した無料のスマホ等の充電スタンドなど先進的な事例も参考にして、取組を行ってほしい。
	<p>○第4章 2-(2)-②「宿泊施設、…人材育成、スキルアップ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の記載内容が「接遇能力に限定した人材育成」という書きぶりに見えるが、一番不足していると感じるのは観光関連事業者の発信能力であるため、その点についても記載してほしい。
	<p>○第4章 2-(2)-③「おもてなしの推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の方たちがどれだけ観光ということに対して意識啓発をし、そこから自分の地域の魅力というものを発信していくかということがこれから非常に求められているのではないかとと思うので、地域住民の方も地域の観光推進に具体的に貢献できるスキルを磨いていけるような文言を付加いただきたい。
	<p>○第4章 2-(2)-③「おもてなしの推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組例として掲載していただけるものがあれば、他所で何をやっているか参考になるので記載してほしい。

平成27年度第3回長崎県観光審議会(主な意見)

意 見	
	<p>○第4章 3-(1)-①「道路・港湾等の交通基盤の整備」 ・佐世保-東彼杵道路についても計画の記載の中に入れてもらいたい。</p>
	<p>○第4章 4 全般 ・今回新たに”「2つの」世界遺産(候補)”とする記載があるが、その後ろに「と日本遺産を」という文言を付加できないか。</p>
	<p>○第4章 4-(1)-①「受入体制の整備」 ・水洗トイレの普及というのは非常に大切な観光インフラであると思うので、普及率について実際の数値を確認したうえで他県と比較して目標をつくっていくことも必要なことではないか。</p>
	<p>○第4章 4-(3)-①「ターゲットを明確にした情報発信」(取組例) ・長崎市とハウステンボスというのがイルミネーション含めて夜景観光としてあるが、他に、壱岐・対馬の漁火、佐世保の軍港、SSKの工場夜景と艦船の夜景というようなものも素案に組み込みむことで、長崎県全体としてもっと魅力をアピールできるはず。</p>
	<p>○第4章 5-(1)-④「心の交わり」を重視した～双方向交流の推進」 ・外国のガイドさんたちの教育を通して、こちらから働きかけることによって、訪れてくれる人たちの意識も少し変えてもらわなければならないと思う。そのような取組を通して、心の交わりというものが実現できるんじゃないかという意味では、「心の交わり」というのは、ひと工夫いるのではないか。</p>
	<p>○第4章 5-(2)-②「国際線チャーター便を活用した誘客拡大」 ・国際線と併せて、国内線のほうの路線をもう少し利便性を考えたかたちで整備していく視点も必要ではないか</p>
	<p>○第4章 5-(3)-①「Wi-Fi環境、外国語対応などの充実」 ・宿泊施設が不足する中で外国人が今トレンドとして狙っているのがゲストハウスのようなのだが、条例が整備されていないと泊まれないなど様々な課題があるとしても、ゲストハウスの施策の中で外国人が日本に求めているような部分を提供すればできることもあるのではないか。</p>
	<p>○第4章 5-(3)-③「外国人向け「おもてなし」の充実」 ・この項目での「きめ細かな」とは、外国の方が期待している”一人ひとりに柔軟に対応する”というニュアンスであり、日本人の目線で考えたきめ細かさをどんどんやっつけていけば外国の人が喜ぶのかといえそうではないので、この「きめ細かな」という言葉がそのように受け止められないように留意すべき。</p>

平成27年度第3回長崎県観光審議会(主な意見)

意 見	
	<p>○第5章 佐世保・西海・東彼・北松地域、平戸・松浦地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒島などの離島は船からの観光というものが考えられている中で、「施策の方向性」の「隣接する地域との連携体制の強化」の取組として、黒島と平戸等を船でつなぐような取組が世界遺産に関しても必要ではないか。
	<p>○第5章 対馬地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素案には韓国からのインバウンド対策が主な方向性としてあるが、日本(特に北部九州)からの観光客をもっと増やしたい等の表現・方向性も必要ではないか
	<p>○各施策で想定される推進主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全て○だけであると一体どこが主幹になるのかがわからない。責任と権限のプライオリティはつけるべきではないか。
	<p>○第1章 4. 数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値目標の中で新規の項目入れられるのであれば、「なぜ長崎を選んだか」という理由をきちんと把握できるしっかりと把握してほしい
	<p>○第1章 6. 進行管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進主体の表のにある、各主体が取り組むことについての最終的な管理についても進行管理には入ってくると思う。事業に対する精査とか反省とか、そして、それをこれからどう活かしていくかというのが大事。
	<p>○第4章 4-(1)-①「受入体制の整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入体制の整備の中で、長崎の一番の問題はトイレ。トイレについてを優先的に整備することがおもてなしの心の表れであるので、進めていってほしい。
	<p>○第4章 1-(1)-②「観光協会等の組織強化」(取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DMOについて、「戦略的に」という言葉がある以上は相当高いレベルのところ責任を持ってやらないと、言葉だけになってしまうので、「支援」ではなく、どちらのセクションもまず先頭に立ってリードしていくというようなことではないと、戦略的に再構築するのは難しい。
	<p>○第4章 2-(2)-③「おもてなしの推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平戸の教会では、教会オリジナルのパッケージを入れた九十九島せんぺいをつくっているところがあり、国内外の方を買っていただいている。教会群が世界遺産候補になっているが、教会に関わる人達にそういったおもてなしの意識を持ってほしいと思うところもある。

平成27年度第3回長崎県観光審議会(主な意見)

意 見	
	<p>○第4章 5-(1)-①「2つの世界遺産を～欧州等からの誘客」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人が非常に多いような気がしており、中でも特に欧米人が多くなっているように感じるが、欧米人が来るとことは非常に価値が上がることだと思う。
	<p>○第4章 5-(3)-①「Wi-Fi環境、外国語対応などの充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストハウスは、万が一トラブルがあったときに、世界中にあつと言う間に発信されてしまうので、慎重に進めていく要素も必要。
	<p>○第4章 5-(3)-①「Wi-Fi環境、外国語対応などの充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこにお金をかけたらどれだけ観光効果があるかという面でもWi-Fiというのはそれなり投資をする必要があるのではないかと。
	<p>○第5章 壱岐地域・対馬地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壱岐と対馬の記載が分かれているが、今、いろんなツアーでも壱岐で1日、次の日は対馬とかいうツアーが増えてきているので、県としてもその視点は必要ではないかと。
	<p>○第5章 壱岐地域、島原地域、県央地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・麦焼酎であったり、三重県の松坂牛の発祥地は壱岐であったりといった小さな情報がまったく発信されておらず、もったいないと思う。また、日本神道発祥の地ということであれば、伊勢神宮に行ったら壱岐に行こうみたいなキャンペーンのようなかたちを三重県と連携できないか。 その他、島原は温泉地としてもっと力を入れるべき。諫早はうなぎを使ったサミットを開くなど食を推進すべき。
	<p>○第5章 壱岐地域・対馬地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壱岐と対馬をどういう形で連携させていくか、まずはその道筋を行政に作ってもらわないといけない。
	<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今行っている種々のアンケートは非常に内容が多く、重複するものもあるので、簡潔で的確なものを選んだほうがいい。
	<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート、リサーチ等行う場合は、調査項目を増やして、プラス要素だけでなくマイナス要素も併記できるような作りとすべき